

2008
SPRING

卒業・修了おめでとう



平成20年3月 卒業・修了予定者数

(平成20年3月25日現在)

工学部	卒業者数	大学院工学研究科			
		修士課程	修了者数	博士後期課程	修了者数
機械創造工学課程	119	機械創造工学専攻	82		
電気電子情報工学課程	114	電気電子情報工学専攻	90	情報・制御工学専攻	5
		電気・電子システム工学専攻	1		
材料開発工学課程	44	材料開発工学専攻	43	材料工学専攻	7
建設工学課程	34	建設工学専攻	35		
環境システム工学課程	53	環境システム工学専攻	38	エネルギー・環境工学専攻	13
生物機能工学課程	42	生物機能工学専攻	31		
経営情報システム工学課程	38	経営情報システム工学専攻	31		
計	444	計	351	計	25
				論文提出により学位を授与されたもの	2

大学院技術経営研究科	
専門職学位課程	修了者数
システム安全専攻	15
計	15

編集後記

ご修了・ご卒業おめでとうございます。この長岡の地で研究活動など様々な体験を通して大きく成長されたことと思います。私の卒業式はもう15年以上も前になりますが、卒業されていく皆さんを見てみると、ふと羨ましく思うことがあります。それは、達成感に溢れているのと同時に、これから新天地へ向かう希望や不安の入り交じった、良い意味での緊張感から感じられるのかもしれない。長岡技科大から新天地へ、今一度、初心にかえって、さらに飛躍されることを期待しています。

VOS144号 (平成20年3月) *本誌に対するご意見等は下記までお寄せください。

編集発行/長岡技術科学大学広報委員会(総務部 総務課)

〒940-2188 長岡市上富岡町1603-1 Tel.0258-47-9209 Fax.0258-47-9000

E-mail: skoho@jcom.nagaokaut.ac.jp URL: http://www.nagaokaut.ac.jp/

VOSの由来

本学のモットーである、Vitality, Originality, Servicesの頭文字をとって、本学初代学長の故川上正光氏により名付けられました。

VOS
No.144

VOS

[長岡技術科学大学 広報]



長岡技術科学大学

No. **144**
2008.March

VITALITY
ORIGINALITY
AND SERVICES

特集 卒業・修了

Contents

- 2 学長告辞
- 4 卒業・修了を祝して
- 6 贈る言葉/卒業・修了にあたって
- 19 贈る言葉
- 20 退職にあたって
- 24 卒業・修了者数/編集後記



長岡技術科学大学



学長告辞

人生を豊かに

長岡技術科学大学学長
小島 陽

卒業生・修了生の諸君、おめでとう。本日、ここに、平成19年度の卒業式・修了式を迎え、学士、修士そして博士の学位を得た諸君に心からお祝い申し上げます。また、諸君をこれまで長年にわたり育て、支えてこられたご家族に御礼とともにお祝い申し上げます。

今年も降雪量の少ない冬になりました。新聞、テレビの天気予報でも、これは地球温暖化の影響であると、断定的に報じられることが多くなっています。我々の日常が、宇宙船地球号の定員オーバーによる諸現象に影響されていることは間違いないようです。インド、中国などBRICs諸国の経済発展は、資源の奪い合いと大量消費を招いていることもあり、ローマクラブのテーマであった「成長」と「環境」の調和が一層求められています。

さて、諸君の多くは、これから、社会に出ます。長い人生には、予期しないいろいろなことが待ち受けています。でこぼこ道を歩み、壁にぶち当たることも、たびたびあると思います。



その時に、様々な教訓を得、新たな発見をします。人間は恥ずかしさを感じることによって成長するものです。思いどおりにいかない状態を恥と感ずるから、がむしゃらに努力し、工夫しようと考えます。そうした地道な努力によって一段ずつ階段を上っていきます。

本学のモットーはVOS、すなわちV (Vitality)、O (Originality)、S (Services) ですが、人生訓として、VSOPが言われます。ブランドのランクではありません。いわく、20代は、Vitalityでがむしゃらに仕事をする。30代は、Speciality、専門性を身に付ける。40代は、その上に、Originalityを兼ね備える。50代では、人間をより大きくするために、Personalityも大切に。といった“教え”です。人生には、十分な学力、気力、体力が必要です。学力は大学での勉強だけでなく、周りの人や置かれた状況から学ぶ力です。気力もいろいろですが、基本は、自分の人生を一生懸命大切に生きるための気力です。さらに、健全な考え方をし、充実した仕事

を続けるためのタフな体力です。そして、一番重要なことは、人間としての素直さです。見知らぬ人への親切と寛容、弱者へのいたわり、パーティーなどで傍若無人にならない気配りなどです。周りの人から好かれる人になってください。

諸君が若い時こそ心がけてほしいことがあります。周りの人や会社からの期待を10%でいいから上回ること。どんなことでも10%早く、10%多く、10%深く行えば、周りから頼られ、もっと任せられるようになります。こういう好循環が生まれれば、充実した30代、40代が送れるはずですよ。

諸君もいずれ、リーダーになる日が来ます。中国の呂新吾という思想家は著書「呻吟語」の中で、リーダーの資質について、「深沈厚重なるは、これ第一等の資質」と述べています。リーダーとして一番大切なことは物事を深く考え、沈着冷静で、人間として重みを持ってということだそうです。二番目が「磊落豪勇」で、気持ちを大きく持ち、細事にはこだわらないこと。

最後が、「^{そうめいさいべん}聰明才弁」で、頭が良くて才能があり、弁舌が立つことは優先順位の低いことである。とされています。深沈厚重、物事を分析し、よく考える指導者になるよう心がけてください。陽明学に、「知行合一」という言葉があります。まさしく、知識と行動が一体にならなければ、決してよい結果は得られません。

いよいよ、旅立ちの時となりました。努力した者が適正に報われ、易きに流れる者は得るものが少ないという社会規範の定着が必要であると思います。諸君が、本学のVOS精神に則り、努力、勤勉、責任感を持った、新しい文明を拓く技術の担い手として大成されることを祈念して告辞といたします。

最後に、留学生の諸君。故国を遠く離れ、言語・文化の異なる地での生活、学習には大変な苦勞があったかと思えます。諸君の努力に敬意を表すとともに、さらに研鑽を積んで、それぞれの故国の発展に力を尽くすことを祈念します。



卒業・修了を祝して

“真”を求め
“信”を得る

理事・副学長
(入試・学生・研究担当)

丸山 久一

学部課程の卒業および修士課程・博士後期課程・専門職学位課程の修了おめでとうございます。本学から巣立って行く皆さんに饒の言葉を贈りたいと思います。

卒業・修了を目前にして、過ぎ去った年月を振り返ってみますと、いろいろな事が思い出されます。3年前には中越地震があり、その冬は十数年振りの豪雪に見舞われました。もう地震は当分来ないと思われていた矢先に、昨年、再び中越沖地震に襲われました。そのような自然環境の中でも、淡々と学業を積み、成果を残して卒業・修了していく皆さんを大いに祝福したいと思います。

在学最後の年は、社会的には“偽”という言葉が喧伝されました。いずれも老舗でありブランドを誇る食品関係の会社による賞味期限や生産地の偽装です。何故そのような不実に手を染めたのかは知る由もありませんが、営々と築いた信用が一朝にして崩れ去ることを目の当たりにしました。

昨年末に、故伊丹十三監督の「スーパーの女」という映画をテレビで見た際、現在の世情とあまりに酷似していて、一瞬、10年前

の作品であることを忘れ、ドキュメンタリーかと思いました。製造年月日のラベルの貼替えは言うに及ばず、肉の混ぜ合わせ、生産地の偽装等々、リアルタイムの出来事そのものでした。印象的だったのは、そのような偽装は、そこに働いている従業員は当然知っています。自店の商品は買わないということでした。映画ですので、最後は商売の基本に戻り、従業員が自店の商品を買っていくというエンディングで、現実のようにはなりません。

これは利益を追求する会社の話で、真理を探究する教育現場とは関係がないと言い切りたいのですが、同じ人間である以上、弱さも持ち合わせています。本学ではありませんが、研究業績を求めるあまり、不確かなままでの論文投稿や、研究資金の不適切な使用などが新聞紙上を賑し始めています。

一時の苦境逃れが一生涯を損なうことは、会社も個人も同じです。あえて“倫理”を持ち出すまでもなく、一歩退って再起を期するという決断ができれば、随分と楽になるのではないかと思います。

今読まれている本で、「生物と

無生物のあいだ」(福岡伸一著)というのがあります。入口は、表題のごとく“生物とは何か”ですが、中は、DNA発見を巡る研究者間の競争の歴史や、著者自身の研究生活などが興味深く記されています。分子レベルの生物学の面白さを味わるとともに、生命に対する価値観の大きな変更も余儀なくされます。

如何にして誰にもできない新発見をし、ノーベル賞の栄光を手にするかを述べた箇所、 “チャンスは準備された心に降り立つ” という言葉は、非常に印象的でした。一瞬のチャンスを捉まえきれるか否かは、不断の努力と、研ぎ澄まされた精神にかかっています。

卒業・修了していく皆さんの将来についても同じことが言えると思います。技術者として、自らのプライドをかけて“真”に近づく努力をしてください。ただ、人生は一瞬のチャンスだけではありません。つまりいつでも、いつでもどこでもやり直しができます。その姿勢が“信”を築きます。失敗を恐れず、チャンスをつかむべく希望に向って歩まれることを願っています。



卒業・修了を祝して

経験と体験が人をつくる

長岡市長
森 民夫

長岡技術科学大学を卒業・修了されるみなさん、おめでとうございます。学業生活の節目を迎えられるみなさんの門出を、心からお祝い申し上げます。

みなさんはこれからいよいよ実社会へ、あるいはさらなる勉学の道へと、新たな第一歩を踏み出すこととなります。これまで培われてきた、新しい何かを発見する力、先を見通す力、問題を解決する力を持って大きく飛躍され、志を成し遂げられることを心から期待します。

毎年恒例となっている、その年の世相を表す「今年の漢字」。昨年は、食品産地や耐震強度など相次ぐ偽装発覚を反映し、「偽」の一字でした。この言葉に象徴されるように、現代の日本は、モノやカネの動きではめざましいものがありますが、その反面、肝心のヒトがおろそかになっているように感じます。私たちは、人間としての根本、「人間力」を高めていく必要があると強く思います。

私が若いころ、その思想にふれ感銘を受けた人物に、安岡正篤と

いう人がいます。東洋思想に立脚した人物学をもとに、歴代総理大臣の指南役といわれ、現在の元号「平成」の考案者といわれる人物です。彼はこう語っています。

「人物学に伴う実践、即ち人物修練の根本的条件は、怯めず臆せず、勇敢に、而して己を空しうして、あらゆる人生の経験を嘗め尽くすことであります。人生の辛苦艱難、喜怒哀楽、利害得失、栄枯盛衰、そういう人生の事実、生活を勇敢に体験することであり

さらに安岡正篤はその著作の中で、幕末の長岡藩家老・河井継之助を例にあげ、こうも言っています。

「人物の大きさは天然に生まれたままで大きい人物もあるが、それだけでは人間はいけない。人間は向上的存在であるから、そこで練磨が伴わなければならない。これを称して識量という。河井蒼竜窟(継之助)のごときは最も識量の大きな人である」

かつて継之助は諸国に遊学し、行く先々の実情をつぶさに見聞き

し、師や盟友と出会い、交わりを結びました。練磨、すなわち実体験が、英傑・河井継之助をつくったのです。昔も今も、経験や体験から自分の頭で考え学び取ることこそ、人としての根幹、つまり「人間力」を磨く最も大切なことだと思います。

学校で学んだ学問や知識も、社会や実生活の経験や体験を通してはじめて「本物」になります。どうかみなさん、汗をかくことをいとわず、恥をかくことを恐れず、困難や課題にチャレンジしてください。自分で考え自分で行動する自主自立の気概で、新たな世界にはばたいてください。最後に、卒業・修了されるみなさんの御健康と御多幸を心からお祈り申し上げて、お祝いの言葉といたします。



贈る言葉

目標を明確にもって

機械系長

矢鍋重夫



卒業、修了、おめでとうございます。大きな希望と決意、少しの不安、いまの気持ちを初心としてください。

昨年末、本学で受けた教育について修了生にアンケート調査を行いました。研究活動、専門教育、実務訓練は現在の仕事に大変役立っていること、英語教育はそうでないこと等がわかりました。グローバル化の時代、大学としてカリキュラム改善の努力が必要ですが、皆さんも英語力の向上に努めてください。

本学は「実践的、創造的な能力を備えた指導的技術者の育成」を目的に掲げています。ひらたく言えば、皆さんは「今後置かれる様々な状況の中で、問題を見つけて（課題を抽出して）、解決策を提示し（見出し）、その実現のために自分と周囲を動かしていく。」ことを期待されています。課題の発見、解決法の提示、実現の各段階で、①目標を明確に描くこと、②たゆまず努力すること、③目標と現実を比較しつつ進め方を考えること、が重要です。「目標を明

確に描く」ということは、「物事の将来あって欲しい姿や本来あるべき姿を自分の中にはっきりイメージすること、さらに、様々な手段で他者へもその姿を伝えられること。」です。このことが、創造的な能力や指導力の根底にあるものだと思います。こまごま書きましたが、事に臨むにあたって、目標を明確に持つように心がけてください。

これからの皆さんの成長と活躍を楽しみにしています。

卒業・修了にあたって

学部（留学生）



日本に来られてよかった

機械創造工学課程 4年
ギェム ティ ラン アイン
(ベトナム 出身)

日本に来てもうすぐ2年になります。桜の美しさ、冬の寒さ、長岡の生活すべてを体験できました。

子供のころから、一度も故郷を離れて生活したことがなかったので、寒く、ホームシックなどで泣いたときもありました。しかし、ホームステイ先のお母さんや学校の先生方からお世話になり、とても感動しました。そして、時間が流れていくと、日本人の友達、同じ留学生の友達の出会いが多くな

り、だんだん長岡は自分の実家だと考えるようになりました。

大学の勉強では毎日授業や実験で忙しいですが、同級生のベトナム人の友達と皆で協力していました。特に3年のときは授業の時間以外は常に皆で遅くまで図書館に集まり、勉強しました。大変でしたが、とてもいい思い出となっています。特に、熱工学研究室に配属され、ゼミでは伝熱工学の基礎や数値計算の学習に加え、研究の

経過報告会を兼ねて行ってしまったので、今では技術者として必要な能力が身につきました。長岡技術科学大学に留学でき、本当に良かったです。これからも大学で学んだことを仕事に活かしていきたいと思います。

最後になりましたが、お世話になった先生方や研究室の皆さん、日本で出会った方々に心から感謝しています。本当にありがとうございました。



B4ポスター発表にて

卒業・修了にあたって

大学院修士課程



大学生活を振り返って

機械創造工学専攻 2年
谷口 昂
(神戸市立高専 出身)

長岡に来てから4年が経ちました。振り返ってみるとあっという間に4年が過ぎた気がします。長岡のことはほとんど知らずにこちらに来ましたが、外が好きな私にとって冬、春はスキー、夏、秋は山登り、自転車と一年中、山で遊べる長岡が大好きになりました。振り返ってみると雪が降ると研究室から消える生活を送っていたような気がします。雪の大変さに気づかされたのもこちらに来てからです。一日で50cm、60cm、時

には1m以上降る日があるのには驚きでした。地元の人が雪掘りと言っていたのも納得です。住み込みで雪掘りとスキーを毎日していた日が懐かしく思います。朝はスキー、昼から研究という生活ができるのもこの大学ならではのと思っています。

遊び以外でも、タイへ実務訓練で行かせていただきました。衝撃を受けたこともたびたびありましたが、現地の大学生と飲んだり遊んだりできたことは卒業してから



春スキー、立山にて

ではできない経験だと思います。また、カナダの国際学会で発表をする機会を与えていただくなど貴重で楽しい経験をさせていただきました。

最後になりましたが、私にとって大切なたくさんの財産を与えて下さった先生方、先輩、友人、後輩、両親、そして出会った全ての方に心から感謝致します。本当にありがとうございました。

卒業・修了にあたって

大学院修士課程（留学生）



2年間の留学生活

機械創造工学専攻 2年
チャイクル パタマポーン
(タイ 出身)

長岡技術科学大学の学生になってから、あっという間に2年が経ちました。時間が経つのは本当に早いものです。日本に留学する私にとっては良いことも悪いこともあり、人生で一番良い経験だと思います。家族から離れた違う国で生活することは寂しくて色々な問題がありましたが、日本の文化や日本人の考え方、あるいは働き方を学習して理解できました。

留学生活に慣れるまで、タイ人の先輩たち、日本語の先生、国際

課の皆様、研究室の先生、研究室の皆さんに相談し、優しく手伝っていただきました。本当にありがとうございました。

自然が豊かな長岡では遊ぶ場所が少なくても、大学祭や、長岡国際祭りや、会社見学旅行など、留学生にとって多くの活動があります。これらによって寂しさを忘れ、2年間の学生生活を楽しむことができました。

研究では言語が非常に難しいですが、先生方と研究室の皆さん



2006年、バーベキューパーティー

は、研究に関することや日本語などを熱心に説明し、教えてくれました。これは自分の能力を増加させ、自分自身も鍛えられました。

大学では勉強が一番大事ですが、せっかく日本に留学したので、逆から日本の文化を理解し、逆に自分の国の文化や料理などを日本人、あるいは他国の留学生に紹介する事が人生として良い経験だと思います。

贈る言葉

電気系長
大石 潔



卒業、修了おめでとうございます。

皆さんは今、明るい希望に満ちた気持ちで人生のスタートラインに立っておられます。この人生の門出にあたって心からお祝いを申し上げます。

さて、現代、私たちは科学技術の飛躍的な進歩によって、大変便利で快適な生活を送っています。そして、皆さんがこの長岡技術科学大学で学ばれた「工学」がこの進歩の大きな一翼を担ってきたこ

とは言うまでもありません。物や情報が世界中を飛び交い、私たちは居ながらにしてこれらを楽しむことができるのです。

しかし、その一方で、この便利で快適な生活が実は非常に危うい土台の上に成り立っている物であることが、昨今のさまざまな事件や出来事の中に見えてきました。

エネルギーの大量消費により地球の温暖化は進み、また、それにより地球上の富の偏在は益々助長されています。

これからの「工学」はこれら諸問題の解決に大きな役割が求められているのです。

そのためには、文化、環境、経済等ひろい視野に立った新しい「工学」が必要です。

皆さんはこの長岡で「工学」の専門家になられました。ここで学ばれたことを土台として、常に広い視野を持ち大いに活躍されることを期待しております。

卒業・修了にあたって

学部



かけがえのない財産

電気電子情報工学課程4年
磯野 愛
(長岡高専出身)

短いようで長かった私の大学生活も、もう終わろうとしています。高専時代とはまた違った環境で学業に勤しみ、友人たちと夜遅くまで語り合った日々を、昨日のように思い出します。

遊びと学業を思いっきりできる最後のチャンスである大学生活を有意義に過ごすべく、私は、様々なことに挑戦してきました。

そのなかでも、私が一番熱心に取り組んだのは、人間関係を築き上げること、つまりコミュニケー

ションです。この時期に築き上げた友人たちは、私にとって最もかけがえのないものとなると信じています。時には励ましあい、時には厳しいことも言いあえる友人関係をつくれた、この大学生活は最高の財産となりました。この大学に入学できたことを幸せに思います。

私は卒業後に、この財産を胸に社会に羽ばたいていきます。きっと、挫折や大きな失敗をします。でも、そんなときにこの



研究室夕食会（筆者は中央、観葉植物のそば）

友人という名の財産で乗り越えていけることと信じています。

この長岡技術科学大学に在学中のみならず、学業だけでなく、何か大きな財産を得られるように残りの学生生活を頑張っていたきたいと思います。

最後に、ここまで大きく育ててくださった両親や先生方をはじめ、私に関わってくださった方々に感謝を申し上げます。

本当にお世話になりました。そして、ありがとうございました。

卒業・修了にあたって

大学院修士課程



大学生活を振り返って

電気電子情報工学専攻2年
日下 優
(茨城高専出身)

私が高専から編入学して、早いもので4年が経ちます。そして、まもなく修了を迎えます。長かった学生生活を終えて、いよいよ社会へ出ることになりました。

大学生活を振り返ってみると「楽しい学生生活が送れた」といえるのではないかと思います。学部時代には、友人たちとスポーツをしたり、旅行へ行ったり、時には遊びすぎて追試を受けたりと、振り返ると純粋に楽しかったように思います。大学院では、勉強、研究に対して非常に不安を抱きながらも、問題を解決するプロセス

を学びました。

色々、辛い事も有りましたが、そんなときに話を聞いてくれたり、一緒に考えてくれたり、励ましてくれたり、時には冗談を言い合ったりする友人、先輩、先生に恵まれていたと思います。特に研究室に配属されてからは、学会参加、ゼミ発表、論文作成であきらめかけた時、励ましてくださり、多くのアドバイスをいただいた諸先輩、後輩、先生方、また、勉強、研究に対して不安で一杯で苦しかったときも、冗談を言い励まし合えた友人には感謝の気持ち

卒業・修了にあたって

大学院博士後期課程（留学生）



長岡技術科学大学での4年間

エネルギー・環境工学専攻3年
トリワージュ ハルディアント
(インドネシア出身)

私はインドネシアからの国際留学生です。4年間を長岡市で過ごし、たくさんの経験を得ることができました。長岡技術科学大学で博士課程のエネルギー・環境工学を専攻し、電磁流体力学(MHD)およびプラズマ力学を研究している原田研究室で学びました。

初年度はチュータさんや、長岡や技大での日々の生活に詳しい友達に助けられました。チュータさんの名前は東尚吾さんで、彼は寛

容でとても親切でした。彼からは日本語を習い、また長岡での生活をよりよくするためによく助けていただきました。

2年目から博士課程に正式に入学し、私は教育方法や教え方について、母国との多少の違いを感じました。それらの1つに週1回の研究室でのゼミがあります。ゼミでは研究室生全員と原田信弘教授が参加して行われ、この取り組みは大変有意義で研究の進展につい



研究室のみなさんと

で一杯です。

4年間「楽しい学生生活を送れた」のも、私を支えてくれた人たちのおかげです。このようなかけがえのない人たちとの出会いがなかったら、大学生活を終えることが出来なかったのではないかと思います。今後、社会人となっても大学生活で築いた人間関係を大切に、交流を深めたいと思います。

最後になりましたが、これまでの学生生活を支えてくれた両親、家族に心から感謝いたします。どうもありがとうございました。



新エネルギー技術シンポジウム（つくば）での一枚

てよい議論ができました。

3年目と4年目は学会への参加を始めました。毎年、MHDやプラズマ関連の学会やシンポジウムに参加しました。

最後に、修了後に私は母国インドネシアへ戻りJember大学での講師として活動します。私の、長岡での経験を学生たちに伝えていきたいです。ありがとうございました。

贈る言葉

祝辞と卒業生、修了生への期待

物質・材料系長
植松 敬三



ご卒業・修了おめでとうございます。洋々たる将来に向けて、いよいよご出発の時です。諸君への期待を込めて一言申し上げます。諸君はまず自分が社会において格別の存在であることを肝に銘じてほしい。諸君は同世代の中で極めて高度な工学教育を受けた者であります。中でも修士や博士学位を得た諸君は、専門分野において非常に高い能力を修得しておられるはずで、諸君は特に優れた人材として、社会から特別

な期待を寄せられております。社会の期待は多方面からあります。その中心は、諸君が本学で修得した技術を最大に活用し多大の成果をあげることです。世界が現在直面するエネルギー、環境、食料等に関する大問題を解決してほしい。社会を幸せにするための新技術を創成また開発してほしい。別の面では、最近、社会が経済性最優先に流れ、弱者の切り捨てや偽物の横行が目立つ点は多くの人々が憂慮しております。この社会の流れに歯止めをかけ、精神的

に豊かな社会を再構築してほしい。さらに他にも、身近な問題解決に向けた様々な期待が寄せられるでしょう。諸君はそれらに十分に応えるよう努めてほしい。とはいえ、人生には大きな山や谷があるでしょう。そのときには本学や我々のことを思い出してほしい。諸君は我々にとり大切な宝です。いつでも力になるつもりです。一度きりの人生を、おおいにエンジョイしつつ有意義に送られますようお祈りいたします。

卒業・修了にあたって 大学院 修士課程



6年間をふりかえって

材料開発工学専攻2年
廣川 奈緒美
(北海道札幌南高校 出身)

学部1年から入学し、長岡に越えてきてからあつという間に6年もの歳月が過ぎました。「小学生が卒業できる年月」と考えると長いはずなのですが、却って高校と同じかそれより短いように感じています。それだけこの6年間は密度の濃いものであったのでしょうか。この6年間はとても友人に恵まれたものでした。気が合うのはもちろんですが、皆个性的でそれぞ

れタイプが異なり、彼女らの考え方に触れることで自分の視野を広げることができました。学部時代は集まって夜中までテスト勉強をしたり、図書館でレポートを仕上げたり。院に入ってからは互いに研究が忙しくなり皆が集まる機会が少なくなったものの、研究などに悩んでいるときや落ち込んでいるときには、互いに話を聞き、励まし合ってここまで来ました。こ



化学のおもちゃ箱スタッフと

の6年で得たものは多数ありますが、彼女らに出会えたことは一番の宝物です。最後になりましたが、ご指導いただきました先生方、研究室の皆さんには大変お世話になりました。本当にありがとうございました。また、進学を理解し、常に支えてくれた両親に深く感謝しております。

卒業・修了にあたって 学部



2年間を通して

材料開発工学課程4年
今野 美代子
(鶴岡高専 出身)

大学に編入学して2年間が過ぎようとしています。毎日充実した生活を過ごすことができたと思います。いろいろなことがあった2年間だと思えます。高専から大学に編入学して、まず変わったことは実家から寮に住まいが変わったことでした。初めは慣れないことに戸惑いましたが、最近では少し板についてきた感じがします。実家で母親が作る料理はバランスがよく、本当にお

いしかったと改めて感じました。また、私は学部で卒業したいと考えていたので、編入学して半年ほどで就職活動を始めました。これも初めての経験でかなり思い悩んだ時期もありましたが、友人、先輩や先生方、家族などのアドバイスや支えもあり無事に内定をいただくことができました。就職活動は初めて自分自身と真剣に向き合うことができた非常に貴重な経験だったと思います。



寮のラウンジにて

研究室では、先生方には研究や授業のことなど丁寧に指導していただき、先輩方にも優しく相談などにのっていただきました。最後に諸先生方、研究室の皆さん、友人、家族に心から感謝したいと思います。4月からは、社会人としてもっと気を引き締めて頑張っていきたいと思っています。2年間でしたが本当にありがとうございました。

卒業・修了にあたって 大学院 博士後期課程



学部・修士・博士

エネルギー・環境工学専攻3年
武田 公平
(苫小牧高専 出身)

技大に編入してから『学部』2年間、『修士課程』2年間、『博士後期課程』3年間とそれぞれ異なる時間を過ごしてきました。学部時代は、研究室による束縛がほとんど無いため、かなり自由な時間が多く、今になって思いますが、この時期、無理にでも「勉強」と「遊び」をもっとしておけば良かったと少し後悔しています。しかし、長岡を4ヶ月間も離れた『実務訓練』では、良い職場の

方々に恵まれ、上記の2点を十分に満喫することができたため、満足しています。修士課程になってからは、研究室がメインの生活になり、初めて長期計画に基づいた実験を経験しました。実験に追われるなか、研究室の先輩や同僚と共に、彼方此方に引っ張り回したり・されたり方ができたと思います。博士後期課程では、海外の学会



研究室花見

への参加、英語論文作成、研究室での後輩指導、就職活動など、実験以外でも忙しいことが多く、この3年間で最も短く感じられました。しかし、最も自分が成長したことを実感できる期間でもありました。最後になりましたが、この充実した学生生活を送ることができたのは周囲の方々に恵まれたためと思います。諸先生方、友人、先輩・後輩に心から感謝致します。

贈る言葉

変化 (Change) をマネジメントする力

環境・建設系長

松本 昌二



ご卒業、修了、おめでとうございます。

諸君が新たな出発をする今、1年間を振り返ってみると本当に様々な事があったなと思います。中でも中越沖地震によって多くの人が被災し、東電柏崎刈羽原発が止まったことは、決して忘れられません。地震、豪雪など自然現象だけではなく、君たちがこれから働く会社、職場とその環境は、日々変化し続けています。嘗て経験したこと、学習したことに似ている

ようでも、同じことの繰り返しはなく、常に変化しています。このような「変化の時代」に生きてゆくためには、周りの変化に飲み込まれるというより、自分で変化 (Change) を創造していく、マネジメントするというフレキシブルな頭脳、しなやかな柔軟性が要求されます。

そのためには専門分野はより深めて、しかも一般教養を広げる、人によって呼び方は様々ですが、T字型人間、V字型人間になるこ

とです。単細胞的な人間ではなく、多面的で流動的な思考ができる人間に、コミュニケーション力も磨くことです。工学部出身として専門は極めます。でもそれだけではなく、政治、経済、歴史、文化など幅広い分野の読書や、他分野の人との交流を心がけて下さい。もちろん簡単になれるものはありません。そういう目標を持って、強い意志を持って邁進して下さい。健康で、大いに活躍されることを期待します。

卒業・修了にあたって

学 部



奇行と苦楽と支えの2年間

環境システム工学課程4年
大井田 朋子
(群馬高専 出身)

月日が経つのは早いもので、つい先日編入したかと思えば、もう卒業です。長岡で過ごした2年間は私にとってとても思い出深いものとなりました。

振り返ってみると、フットサルの応援をしたり、「○○パーティー」を毎週の様に行ったりと、友達や先輩と充実した日々を送っていたような気がします。何の目的も持たずに富山まで行き、変な歌を歌いながら帰ってきただけという奇

行もありました。しかし、楽しいことばかりではなく、辛くて涙を流したことも何度もありました。研究がなかなか思うようにいかず、学校に行くのが苦痛だったことも一度や二度ではありません。そんな時、メールや電話で励まし、相談に乗ってくれたのもやはり先輩や友達、そして家族でした。先生も忙しい中、目を掛けてくださいました。

改めて考えてみると、このよう



ボーリング場にて

な多くの方々に支えられてきたからこそ、今の自分があるのだなと感じます。この春、学生生活を終え、社会人となります。本学で学んだことや経験を生かし、これからも日々成長していきたいと思えます。最後に私を支えてくれた家族を始め、先生、先輩、友達に心から感謝します。ありがとうございました！！

卒業・修了にあたって

大学院 修士課程



お世話になった皆さんへ

建設工学専攻2年
松永 扶有子
(新潟県立長岡高校 出身)

この大学に入学してからもう6年も経ってしまいました。振り返ってみると、本当に多くの人に支えられたなあと感じます。

最初はこの大学でやっていけるのかとても不安でした。でも、合宿研修などでいろんな人と出会ってそんな不安は一気になくなりました。今ではこの大学に入って本当によかったと思っています。友達には日々の授業や実験のレポート、テスト前の徹夜の勉強、悩み

事・愚痴…などなど、非常にお世話になりました。お世話になったといえば、バス通学していたころに、自宅が学校から遠いのを理由によく家まで送ってもらいましたが、送ってくれた人には感謝できません。

大学院に入ってから研究はもちろん、研究以外の分野においても数多く学ぶことができました。そこでは多くの経験を積むことができ、また自身への成長へとつな



長岡花火にて

がったと思っています。

春からは社会人となりますが、この大学で学んだことや経験を生かし、常に目標を持って頑張っていきたいと思っています。

最後に、お世話になった先生方、研究室の皆さん、いままで出会った方々、そしていつもそばで見守ってくれた家族には本当に感謝しています。ありがとうございました。

卒業・修了にあたって

大学院 博士後期課程



やっと迎える修了

エネルギー・環境工学専攻3年
酒井 早苗
(福島高専 出身)

技大生になって早7年、小学校よりも長い年月をこの大学の学生として過ごすとは思ってもみませんでした。振り返ってみると思い出は尽きず、その学生生活はとても充実していたと思えます。

学部4年生の時に水圏土壌環境制御研究室に配属されて以降、研究が私の生活の中心となりました。厳しい研究室であると聞いていましたが、追い込まれないとやらない性格の私は、そういう状況

下でないと研究も進まないだろうと思い、この研究室を選びました。そして、「やらなきゃ、やらなきゃ」と頑張ってきたように思います。その甲斐あってか、研究の成果を認められ、昨年1年間はドイツのマックスプランク研究所で研究生活を行う機会を得る事ができました。ドイツで過ごした時間は研究面においても生活面においても貴重な経験となっています。

7年の間苦しい時も沢山ありま



ベルリン ブランデンブルク門の前で

したが、それら全てが今の自分を培ってくれたのだと思いますし、この大学、そして今の研究室を選んで本当によかったです。最後になります。このような充実した毎日を送る事ができたのも周囲の方々のお陰です。お世話になった先生、研究室のメンバー、友人、そして両親には心から感謝しています。今まで本当にありがとうございました。

贈る言葉

一事に、そして万事に

生物系長

曾田 邦嗣



「果報は寝て待て」という言葉がある。その意は「幸運は人事の及ばぬ所だから、焦らず時機の到来を待て」ということである。その一方で、「先んずれば人を制す」という言葉もある。勿論「相手より先に事を為せば優位に立てる」との意である。両方を同時に聞くと、互いに矛盾しているようにも聞こえるが、聞く人の状況が変われば、それなりの重みと説得力を持つことになるからこそ、箴

言と言われるのだろう。箴言が箴言としての説得力を持つためには、それを聞く側の人間が、それに相応しい状況にあり、相応しい判断力とバランス感覚を持っていることが必要なのだろう。今、卒業・修了を迎えた多くの諸君には、技術者・研究者としての人生が待ち構えている。技術者・研究者として一つの事を為し、優れた成果を得るためには、知恵と力を集中できる能力が要求されるだろ

う。その一方で、自分にはどのような課題に取り組むことが求められているのか、問題を解決するにはどのような手立てを採るべきかを判断するには、現状を適確に把握できる広い視野が必要になる。だから私は、門出を迎える卒業生諸君に、「一事に専心せよ」そして「万事に関心を持て」という二つの言葉を贈りたいと思う。

卒業・修了にあたって

学部



「状況？何が状況だ。
俺が状況をつくるのだ。」
ナポレオン（皇帝）

生物機能工学課程4年
兒玉 徳道
(宮崎県立日向高校 出身)

4年前、太陽のまち宮崎から来た私は、右も左もランドクラブの位置も分からない青二才でした。しかし今や、長岡の地理も覚え、ランドクラブをランクラと言える程に成長しました。

みなさん、大学生活では多くの人と出会って下さい。外に出て下さい。大学生活は自由です。おそらくこれから先の短い人生、これほどの自由が次に与えられるのは60歳を過ぎて定年を迎えたオッサ

ンになるまで無いでしょう。しかし60歳になって今のような自由を与えられても、腰が痛かったり、「ヨイショ」という膝の叫びが聞こえていたり、体力的自由を失っていることでしょうか。つまり活力あって自由がある時は今しかないのです。そう！勉強なんてしな…おっとこれは大学の広報誌でした。えっと…もっと勉強を頑張りましょう。大学生の本業は学業です。要するに学生として当たり



一番左上です。新潟県ALT（外国語指導助手）サッカーチームです。全国制覇しました。

前のことをして、若者として当たり前の事（遊び）はもっとしましょう。この時期は多くのピンチをチャンスに変えることができます。ピンチャンスです。オッサンになってからのピンチは高確率でピンチです。

最後に、この4年間遠くから支えてくれた両親には感謝します。ありがとう。これからはスネをカジって下さい。元気でね。

卒業・修了にあたって

大学院修士課程



素晴らしき人々との出会い

生物機能工学専攻2年
山田 絵梨子
(群馬高専 出身)

長岡に来てからあっという間の4年間でした。少なからず本意だった本学の進学でしたが、編入してから1年目の学部3年は、実験レポートやテストに追われ、課題をこなす日々でした。そんな忙しい中でしたが、学部3・4年交えての花見やクラスのパーベキュー、女子寮での勉強会やサークル活動を通じ、様々な人と出会い、そしてたくさん話をしました。

学部4年で研究室に配属となつてからは、研究室内の限られた人とより深く交流することとなりました。10月からの実務訓練では茨城県つくば市の研究所で約半年を過ごし、そこで出会った幅広い年齢層の方々とは、現在でも研究だけに限らない連絡を取り合う関係となっています。

修士1年から修了までの2年間は、就職活動と研究の両立や生活面でも悩むことがあり、決して楽



2007年8月、第1回研究室旅行（妙高にて）

しいことばかりではありませんでした。しかし、研究室旅行や忘年会、飲み会などの企画や実行が無事にできたことは、とても良い経験となりました。

4年間を振り返ると、いつも誰かと話をしていたように思います。友人、サークルの先輩、先生方、研究室の後輩…。研究室の1期生として無事に本学を卒業できることを、今まで私を支えてくれた皆さんに感謝です。

卒業・修了にあたって

大学院博士後期課程



時と繋がり

情報・制御工学専攻3年
高橋 大志
(函館高専 出身)

函館高専から本学工学部生物機能工学課程へ編入し、現在まで7年もの長期にわたり本学に在籍致しました。研究生活を振り返ると、辛かった事の方が多く思い出されますが、楽しかった思い出も多くあり、また共同研究企業や他大学の先生方と知り合うことができたことなど、ここでは書ききれない程の良い思い出も沢山得ることができました。私は機械工学科から生物系へと進学し、研究では

医学系と、現在まで機械・生物・医学と幅広い知識を身に付けてきたと同時に、これからは常に広い視野を持ち、何事に対しても積極的に取り組んで行こうと決意を新たにしているところです。この幅広い知識の中で、時には非常勤講師として、時には研究者として国際学会での受賞、時には釣り人として、学生生活を謳歌して参りました。この学生生活の中で得た最も掛け替えのない財産は、高専や



国際学会 授賞式

本学の先生方、ならびにその他の方々のご支援によって、現在までやってこられたという事を“実感できた”事があります。さらに自身の努力も含めて、それら全てが私の自信と誇りに繋がっております。末筆ではございますが、ご指導ならびにご支援を頂きました皆様方に謝辞を申し上げ、今後更なる飛躍を遂げられるよう努力して参りたいと存じます。

贈る言葉

出会い

経営情報系長

中村 和男



卒業そして修了おめでとうございます。みなさんはこれまで幾度も卒業式を経験してきたのですが、多くの方々にはこれが最後の卒業式となり、いよいよ社会の荒海に漕ぎ出してゆくことになるのですから、特別の卒業・修了ということになります。

私自身を振り返ってみますと、大学および大学院の時代の体験が、その後の社会における活動の土壌や種子となったと実感できることがいくつもあります。なかでも、友人や先生、そして知識や本、出来事などと

のいくつかの出会いです。

特に先生方との出会いというものを振り返ってみますと、授業や指導を通していくつかの道標を頂いたと思っています。液体の微粒化研究で著名であった先生には、取り組む課題が複雑で難しいものであっても、単純な一滴の液体の雫がどう成長し、落下するのかという「原点に戻って現象をとらえるおすこと」の有効性を、歯車の機構研究で有名な先生には、機械のメカニズムを発想するのに単純でありながら面白いオモチャ作り

という「学問における遊び」の重要性を、また、数値計算法の授業では、卓上の手回し式計算機を使つての「原理や過程の徹底した体験」による学習の有用さを、教えて頂いたことが今でも蘇ってきます。

皆さんも将来、大学時代を振り返るとき、様々なすばらしい出会いがあったと思えることが必ずあるはずです。卒業・修了に当たって、大学における沢山の出会いを一度、頭の中で整理してみることをお勧めいたします。

卒業・修了にあたって

学部（留学生）



卒業にあたって

経営情報システム工学課程 4年
ノルマザヤ ビンティ ハルム
(津山高専、マレーシア 出身)

大学に編入してそろそろ2年経ちます。時間が経つのは本当に早いと感じています。気がついたら、大変だった授業も終わったし、卒業論文の締め切りも迫ってきます。間もなく卒業を迎えて、社会人になります。

長岡技術科学大学に初めて来たのは大学のオープンキャンパスで、私が高専4年生のときでした。そのとき、大学生活は勉強だけに限らず様々な活動で学生たちが楽しく過ごしていると感じました。そして、この大学を選ん

で、経営情報システム工学課程に入学しました。思ったとおり大学生活は高専生活と異なり、比較的自由が与えられた2年間でした。しかし、高専のときに甘えた私は大学生生活の自由さに慣れませんでした。自由で幸せですが、全て自分が決意しないといけないので、責任が重くなった気がしてきました。最初はカルチャーショックでしたが、1年生から入学した友達が助けてくれたので、なんとなく大学生生活は慣れてきました。

大学生とはいろいろな経験がで



B4のみなさんと

き、また失敗を恐れず挑戦できる身分でした。傷つき悩むことも多かったです。「こんなに自由で楽しくていいのだろうか」と思うときも数えきれないくらいありました。そのおかげで自分が成長できたと思います。大学卒業後、数年経ってからこの2年間を思い返すと「あの頃はよかった」と、きっと戻りたくなるでしょう。

最後になりますが、ここまで私を支えてくれた友達、研究室の皆さん、先生方に心より感謝致します。本当にありがとうございました。

卒業・修了にあたって

大学院 修士課程



大学生・大学院生として求められたこと

経営情報システム工学専攻 2年
中尾 亮介
(宇部高専 出身)

本学に入学にしてからの4年間、大学生・大学院生として、何が求められ、また何を養うことができたかを顧みると、それは、自ら課題を見つけそれを解決する力だったように思います。実務訓練や修士論文の執筆などは、その力が試される典型的な場面であり、ここでは、誰かが敷いてくれたレールはなく、始点と終点、そして、そこに辿り着く方法を自分で考える必要がありました。そうな

ることを想定していても、いざ行動に移すと誰かの力を頼りたくなり、未熟さを実感します。ですが、このような経験は大きな財産であり、これから社会人となる自分に、同期と比べられても負けられないという自信を持たせています。

在学生のみなさんへ。アドバイスできるほど立派な学生ではありませんでしたが、このことは、社会に出れば、遅かれ早かれ必ず求められる力でしょう。今から意識



研究室のメンバーと

して行動することに損はないはずです。苦しい道ほど、得られるものは大きく、自分を成長させます。

最後になりましたが、ご指導いただいた先生方、充実した学生生活を送らせてくれた研究室の皆さん、友人たち、そして何より、私の進む道をいつも応援し支え続けてくれた両親に心から感謝したいと思います。本当にありがとうございました。

卒業・修了にあたって

大学院 修士課程（留学生）



人生の経験値

経営情報システム工学専攻 2年
フェブリー アンドリアニ
(インドネシア 出身)

いよいよ修了の時期を迎えることとなりますが、振り返ってみれば入学式に出たことが昨日の出来事のような感じでした。研究している間に子供を授かり、出産することになって色々大変でした。しかし先生方やロータリアンの方々の支えもありお蔭様で子育てと研究を両立することが出来、心より感謝いたします。

入学当時、様々な不安を抱きま

したが、大学の整った環境と研究室のメンバー、そしてなにより先生の独特な指導で順調に研究を進めることが出来ました。先生は通常大変優しいですが、研究のことになると評価が厳しく、そのため自分のオリジナリティのある研究をし、成果を出すことが出来ました。

日本で最先端の技術を得られることは偉大なことで、絶対に見逃



花見一長岡技術科学大学 2007

してはいけないチャンスだと思います。学問はもちろんのこと、留学することで母国と異なる文化、言語も学べ、さらに他国の留学生と仲間になって、他国の文化を理解することで、世界への見方が少し変わったような気がします。これらの貴重な経験と知識は帰国後、実践する際に私の肩書きとなり貴重な宝物になるでしょう。

贈る言葉

安全・安心社会の構築にむけて

システム安全系長

武藤 睦治



第1回生の皆さん、無事修了誠におめでとうございます。仕事をしながらの学業の継続に敬意を表します。新設時には、何もないところからのスタートですので、学生の皆さんだけでなく、教員も試行錯誤、泥縄的対応の連続です。皆さんの積極的、建設的協力に感謝します。ヨーロッパでもアメリカでも、本専攻の教育内容を説明すると、すばらしい、そのような

教育はほとんど行われていないとほめられます。見直しは常に必要ですが、その基本的教育内容については、世界的にも誇れるものと思っています。日本に限ったことではありませんが、システム安全が企業にも優先的に取り入れられるためには、これまでのISO9001（品質管理）やISO14000（環境）の取り組みが直接・間接にそうであるように、安全への取り組み

が、コストアップではなく、むしろ経済性、品質向上に結びつくことを示すことが必要と思っています。皆さんの今後の活躍が必ず、企業活動が安全を中心に展開されるような社会へと導くものと考えています。在学時の新専攻の立ち上げと同じように、修了後も安全・安心社会の構築に向けての本学の活動にぜひご協力ください。

贈る言葉

よくがんばりましたね

むつみ会会長
マイスキップ編集部 代表
長岡まつり実行委員会副委員長
渡辺 千雅



文化・科学技術交流の最先端を担うチャレンジャーのみなさん、ご卒業・修了おめでとうございませす。新たな門出を祝し、益々のご活躍をむつみ会一同お祈り申し上げます。
言葉も習慣も異なる日本で、勉学や生活上の不安やリスクを抱え、辛いこともたくさんあったでしょう。日夜、くじけそうになる自分との戦いだったろうと思います。本当によくがんばりましたね。みなさんへのむつみ会の支援は

ささやかなものですが、毎週水曜日の午後、一緒にお茶をいただきながらの交流は20年続いています。日本語と英語と母国語が飛び交う休息のひとつです。健康、住い、アルバイト等の相談もあれば、悩み事やハッピーな報告もあります。恒例行事としては、バザー、ハイキング、座禅と蛍鑑賞、バス旅行など。日本語スピーチコンテストは今年、20周年を迎えます。
この長岡から巣立つ留学生のみ

なさんを私たちは民間支援の立場で見守ってきました。ご家族同様に、国際社会で活躍するみなさんを誇りに思います。
「小さな物語でも、自分の人生の中では、誰もがみな主人公」という歌詞があります。自分の人生を切り拓くパワーを持ったみなさんのストーリーには、きっと素晴らしい主人公が登場することでしょう。

卒業・修了にあたって

専門職学位課程

2年間の収穫

システム安全専攻2年（社会人）
石田 聖
勤務先：大平洋特殊鑄造株式会社（上越市）



ドイツインターンシップ研修施設にて

私は上越市に所在する大平洋特殊鑄造株式会社（旧・大平洋金属株式会社）に勤務しています。当社では特殊鑄鋼品の製造を基軸に、電子ビームによる穴あけ加工および埋設水道管用ステンレス継手の製造・販売をおこなっており、その中で私は技術科学とは程遠い総務・人事関係の仕事をしています。そんな私がシステム安全専攻に通うことになったのは、労働安全は企業のリスクマネジメントの視点からも重要な位置付けにあり、災害

が発生すると被災者だけではなく家族、そして企業をも不幸にしてしまうものであることから、その防止は我々中小企業にとって絶対的必要条件であると考えていたところに社命で受験を言い渡されたことでした。
さて、入学後のカリキュラムは製品安全、労働安全、医療安全、組織安全と分野が幅広く、技術系出身ではない私にとってかなり厳しい科目もありましたが、同期の方々、先生方、また私が所属する

会社の方々に支えられながら、どうにか修了まで辿りつくことができました。私にとって、ここで出会った方々の安全に対する高い志、情熱、姿勢は年齢、業種を越えて大きな刺激になりました。4月からはこの刺激を忘れずに社内の労働安全衛生向上に尽力したいと思います。最後に、お世話になりました種々関係者の皆様に感謝の意を表し、またシステム安全専攻が今後ますます発展することを祈念申し上げます。

贈る言葉

新しい門出を祝して

同窓会会長
塩沢商工高校教諭
磯部 広信



卒業・修了される皆さん、おめでとうございませす。同窓会を代表して心からお祝いを申し上げます。そして同時に、長岡技術科学大学同窓会の正会員になられたことにも心からお喜び申し上げます。
本学は、昨年度が開学30周年の節目の年でした。同窓会会員数は一万人を超えました。同窓生は、日本国内にとどまらず、世界の第一線で活躍しています。皆さんも、歴史ある本学の同窓生として、各界でご活躍されますよう期待しております。

昨年も災害の多い一年でした。3月に能登半島地震、7月には中越沖地震。中越大震災から3年弱、まさか…でした。被災地のボランティアや現地調査に何度も関わった方も多いのではないのでしょうか。また、9月には東北地方の豪雨。いずれも大きな被害があり、皆さんや関係の方々の安否が心配です。
本学は、全国また世界中から学生が集まっています。どんな場所で災害や事件が起きても、必ず誰かの地元や就職先。その度に心配

は尽きません。しかし、世界中の嬉しいニュースをととても身近に感じられるのも、技大同窓生ならではの喜びです。
本学はどんどん進化を続けていますが、根底に流れているのは、変わらずVOSの精神です。皆さんは、本学で学問だけでなく、VOSの精神を学んでこられました。困難にぶつかっても、母校で学んだ誇り、助け合うことができる仲間の大切さを忘れることなく、充実した人生を送られますよう、心よりお祈り申し上げます。

「技術科学」との触れ合い12年を顧みて

副学長（大学評価担当）
物質・材料（旧化学）系 教授
西口 郁三



平成8年4月1日に本学に赴任させて頂き、早くも12年の年月が過ぎんとしております。当時の内田学長から辞令を頂いた4月1日は幸か不幸か丁度大雪の日で、JR長岡駅から学校町の官舎までの雪解け道を新調したばかりの革靴で慎重に足元を注意しながら、ようやく歩いて帰った「手荒い歓迎」の思い出が先ず甦ります。しかし、小生にとって本学での12年間は、今まさに迎えている65年間の長き生涯の中で、浅学非才のわが身にもかかわらず、「最も恵まれ、最も意義深く、最も楽しく、最も充実して」過ごさせて頂いた、真に「貴重な、有難き」期間だと痛感しております。

これは、小生に常に暖かいご指導・ご鞭撻を頂いた本学の故内田元学長、服部前学長そして小島現学長をはじめ旧化学系（現物質・材料系）の皆様や、21世紀COEの「ハイブリッド超機能材料」、「魅力ある大学院-3Gマインド若手研究者養成」、「産学融合トップランナー若手人材養成」、「異分野チーム編成融合型グローバルリーダー養成」、大学評価・学位授与機構の「大学認証評価」、「教員評価システム」及び知的財産活動等の、諸プログラムや諸活動の推進に労苦を共に分かち合っていた、各系の系長や副系長の先生をはじめ多くの担当教職員の皆様からの有難き御厚意の賜物であり、多大のご苦労やご迷惑をおかけし、筆舌に尽くせがたいお世話になりました事に対し、お詫びと御礼申し上げます。

小生は、20代から30代半ばの若年期は京都大学や米国留学でもっぱら学術的研究に従事し、次に壮年期は関西の化学産業への技術貢献・指導の面で特筆すべき実績を持つ大阪市立工業研究所に移り、更に熟年期の50・60代に「**独創性や創造性と共に実践性を重視し、理論と実践の絶えなるフィードバックにより発展する技術科学**」を基本理念とする本学に転勤させて頂いた、**研究人生の変遷こそが、研究者として大変好運であったと存じております。**

今迄の小生の研究人生の具体的な研究の主題は「**電子移動による新有機合成反応の開発**」でしたが、今から思えば、研究の前に計画し大体その通りの結果が得られた場合よりも「**思いがけない偶然の発見（セレンディピティー）**」の方が、はるかに価値高い結果につながったと思います。特に、有機合成化学は、反応設計と共に多くの反応条件の検討が極めて重要であり、ある時は一気呵成に、またある時は慎重に、弛まず、へこたれずに「**実践と解析、思索の粘り強い二重螺旋的繰返し**」が大変重要であります。例えば、陽極酸化反応による、優れた香料素材で兵庫県の特産品「**野路菊アルコール**」の**高選択的な大量合成法の開発、反応順序や位置選択的なワンポット三成分結合形成反応の開発や、安価で安全で環境や生体に優しいMg金属が有機化合物への良好な電子移動剤になりうる事実の発見と高選択的で効率的で簡便な数多くの炭素-炭素結合反応の発明**などは、偶然の発見に

よるところが多く、それぞれ世界的にも有数の学術雑誌に掲載されました。また、全世界を対象とする電気化学関連の国際的学協会である「**The Electrochemical Society**」の**第7回 Manuel M. Baizer賞**を欧米人を含めた候補者の中から単独受賞させて頂くと共に、小島現学長のご推薦の下に「**有機電子移動化学を用いる有機合成化学への寄与と貢献**」により**新潟日報文化賞（学術部門）**を受賞させて頂いた事は、非力な小生にとっては、誠に恵まれた過ぎた程の幸運であったと、深い感謝の念で一杯です。

最後に、小規模の工科系国立大学法人である本学のような特色のある大学が社会から大いに注目される事は、旧帝国大学のアンチテーゼとしての存在感が著しく、我が国にとって大変有意義ではないかと信じます。今後共、大きな大学ではとても実現困難な、**フットワークの良さやまとまりの良さを遺憾なく発揮して、世界に向かって限りなき挑戦・飛躍を続けることが大いに期待されます。**そのためには、最重要な人的財産である教職員の一人一人が常に**自己研鑽**に励みつつ、種々の価値観、業務、専門分野、業績等の相違を超えて、**大学への所属意識や愛着の気持ち**が自然に持てるように構成員全員が種々の配慮を払う事こそ、最も肝要ではないかと存じます。

本学が、開学以来の輝かしさと力強さに益々磨きがかかり、日本のポリティック型大学として、発展され続けられる事を強く信じて、筆を置きます。

里山から、計りしれない恵み

留学生センター長
教育開発系 教授
栄 隆 士

この3年間ほど、週末にはせつせと近くの山を歩いた。与板から西山にかけての西山連峰と、越路の杵形山一帯が中心である。標高は概ね200~300メートル程度。近郊低山ともいえない。里山であろう。技大から車で10~20分程度の近さ。コンビニでペットボトルとおにぎりを用意すれば、支度は十分。コースは、その日の気分、都合、天候次第だ。

そんなごく手軽な山行きだが、私は計りしれない恩恵を受けた。

山中には、自然が生んだ限りなく多様な光と色彩とデザインに満ちる世界がある。緑や黄色が不思議なほどに光り輝く世界と遭遇することもまれではない。モネやルノワールら印象派の画家たちがとりつかれたのは、こういう世界ではなかったのか、と思える。

静寂もある。「静寂は人の心に安らぎをあたえ、美しさを感じさせる。（中略）音は、終局的に静寂には克つことができない」と作曲家、故芥川也寸志さんは明言している（岩波書店「音楽の基礎」）。特に、雪の季節は、真っ白で、ただただ静寂だ。世界がわがものになった感銘を味わえる。

身近で平凡な里山は、実は無尽蔵に豊かなこの世界の一片であり、臆せず言えば、私は、そこから至福の時と生きる喜びを贈ってもらった。懐疑的で無信心者の

私でも「やはり、神はこの世界を祝福しているのではないか」という実感がわいてくるのがしばしばだった。

ひるがえって、社会はどのような様相を帯びているのか。多くの人が携帯電話とスケジュール帳を手を、駆り立てられるような日々を生きる。地球環境の危機が叫ばれているのを無視するかのようになり、カネ儲け・実利最優先の競争が加速している結果であろう。私たちは、今、少しは立ち止まって自省しなければ、文明は自己破壊を招くのではないかという危惧すら浮かぶ。

こうした世相と連動するかのようになり、教育の場では流行語のように「人間力」という言葉を耳にする。だが、功利最優先の土壌から人間力が育つのだろうか。逆に、やせ細るのではないか。

吉田兼好は700年近くも昔に「名利に使われて、閑（しず）かなる暇（いとま）なく、一生を苦しむこそ、愚かなれ」（徒然草第38段）と看破している。功利から少し距離をおき、この世界の豊かさを実感する生き方を確保することが、生きる喜びと意欲を

育み、即、人間力へとつながるのではないか。

私自身、週末にも出勤するような一時期があり、起きる気力が失せるような軽うつ症状がでてきた。それが近場の山歩きに精を出し始めたきっかけだった。

最後に、長岡を郷里とする詩人、花岡大學さんのよく知られる詩「自らに」を引用したい。

雨の日は雨を愛そう
風の日には風を好もう
晴れた日は散歩をしよう
貧しくば心に富もう

5年半前に本学に赴任するまでは、新潟は降り立ったこともない地であったが、今は離れがたい地となった。この間に会った、長岡技大内外の方々に深く感謝致します。



技大近くの雑木林で。08年2月2日

団塊世代退職の始まり

学務課・技術班 技術長
高野三郎



この3月を持ちまして定年退職をさせていただきます。長い間、本当に有り難う御座いました。私は昭和22年7月生まれで団塊世代の最初の年代です。振り返りますと長いようで意外と短くも感じられ、誠に不思議です。私が社会人になった昭和41年春は高度成長時代だった中の時代であり、今日より明日が確実によくなることが確信の持った時代で、一億総中流を目指した時代でもありました。しかしながら、今から振り返る

とそれは東西冷戦の谷間における日本人の勤勉さに裏打ちされた経済発展であったと思います。1991年12月に旧ソビエト連邦が崩壊し、それまで社会主義であった国家が雪崩を打って自由主義社会に合流してきました。以来、BRICs、VISTAといわれる国々が台頭してきて、グローバル経済社会に世界が突入してしまいました。日本は地下資源が殆どなく、世界のなかで生きてゆくには工業立国、技術立国でやっていくしか

方法はありません。この予想される厳しい将来において先端的な研究がなされ、優秀な人材を輩出している長岡技術科学大学の存在意義はますます重要になってくると思われまます。今までお世話になり、すでに長岡技大を退職された方々、そして在職されています教職員の皆様方、本当にありがとうございました。長岡技術科学大学の更なる発展をお祈り申し上げます。

大型実験棟と共に

学務課・技術班 副技術長
中村裕剛

昭和44年長岡高専に採用となり土木学科に10年、施設係に2年、その後長岡技大に26年間お世話になりましたが、とうとう定年を迎えることになりました。

昭和56年4月本学建設系所属技官としてコンクリート研究室に配属になり、同年建設系低層実験棟（当時）の竣工に伴い、実験棟の維持管理をする事になりました。10月には疲労試験機3基が設置され環境が整い始めました。57年より委託実験も始まり、橋脚の補強方法に関する実験などは6年に及びました。冬期間の実験が多く、暖房設備のない実験室で震えながら過ごしたことは、今となっては懐かしく思います。平成12年3月疲労試験機の更新により性

能も良くなり、便利なソフトのおかげでデータの取り込みも随分楽になりました。企業の研究者・技術者と接する機会も多く、非常に多くの知識・技術を授けていただき、実験を進める上で大きな糧になりました。百数十件におよぶ委託実験、院生の研究実験に携わって26年、大型構造物を扱うため危険を伴う実験室でしたが、幸いにして今日まで1件の事故もなく過ごせたことは、非常に有り難く思います。

丸山久一理事・副学長はじめ多くの先生方よりご指導を戴きながら、コンクリート研究室の一員として、また大型実験棟と共に26年間過ごすことができました。多くの学生と過ごした思い出も、なかなか尽きるこ

とはありません。学内外の多くの皆様によって支えられ、今日まで勤められましたこと、心より感謝申し上げます。

今後は自宅にて有機栽培農法による自給自足をめざし、書道・日本画など本格的に学ぼうと思っています。最後に、長岡技術科学大学のますますの発展と、皆様の御健康をお祈り申し上げ、退職の挨拶と致します。



大型実験棟にて

定年退職を迎えるにあたって

学務課・技術班 主任技術職員
神保良夫

団塊の世代、800万人といわれる人が次々と定年退職を迎える時期であると言う事は、2007年問題として話題になっていましたが、私自身が定年退職となると現実味があります。

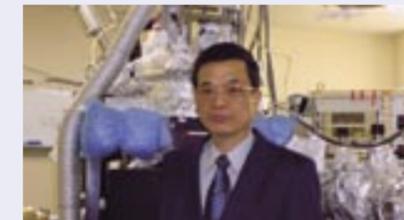
私は、長岡技術科学大学に昭和55年4月に教務職員として採用され、28年間勤務し、この3月末に無事定年退職いたします。このように永きに亘り勤務できました事は多くの教職員皆様のご厚情とご指導のお陰であり、ここに改めて心から厚く御礼申し上げます。

この間を振り返ってみると、初めはマイクロ波研究室に配属され、次に、化合物半導体材料・デバイ

ス研究室に配属されました。この研究室は、MBE（Molecular Beam Epitaxy）装置やスパッタ装置を使って、Ⅲ-V族化合物半導体、透明導電性酸化薄膜等の研究を行っていました。50歳過ぎてから新しい分野に取り組むことに不安や迷いもありましたが、内富直隆先生の下で真空工学、半導体材料工学、半導体デバイス工学等に関して幅広い先端的な技術や知識を学び、教育・研究支援の業務に携わることができました。また、研究室の大勢の学生と対話を持ち、刺激を受けることで、次世代のエネルギーをもらった気がしました。

研究室在職の間、私の人生において、かけがえのない貴重な経験を与えて下さった内富直隆先生をはじめ卒業生の皆様には心から感謝申し上げます。

最後に、長岡技術科学大学がますます発展いたしますとともに、教職員皆様のご健康とご活躍を心よりお祈りいたします。



MBE装置と共に

42年と17日間

学務部長・就職支援部長
関根三則

42年前の3月15日、出勤初日、下宿先の文京区白山から閑静な住宅街の小路を東京大学安田講堂に向かって歩いてきたことが昨日の如く鮮明に思い出され、まさに「光陰矢の如し」の例えを実感しています。

東京大学経理部に14年と4ヶ月、その間、国立大学の先駆けとなった給与計算の電算処理業務、また、海洋研究船「淡青丸」の造船、山梨県野辺山に設置した「口径45mミリ波電波望遠鏡」の製造契約に携わったことが印象深く残っています。本学には27年と8ヶ月、会計課を主に6課で勤務してきましたが、やはり、

5年前の国立大学法人化に向けての6年間の中期目標等の策定や役員会、教育研究評議会、経営協議会等々の諸規則等の素案作りに暗中模索状態で日々苦悩したことが思い出されます。最後の3年間は、身に余る大役を仰せ付かり、果たしてお役に立てたかはいささか疑問ですが、職員皆様の温かいご支援のお陰で、どの部署においても楽しく仕事をさせていただいたことはこのうえない幸せであり感謝の気持で一杯です。

今後、長岡技術科学大学が一層充実、発展され、いつまでも「小さくてもキラリと輝き続ける特色ある大

学」であることを祈念しております。なお、今後も今しばらくお世話になります。初心に返り、引き続き第一の人生を歩んでいきますのでよろしく願います。

長い間ありがとうございました。



本学に着任の頃。34才